

モニタリング結果報告書（平成25年度上半期）

施設	津久井やまゆり園
指定管理者	社会福祉法人かながわ共同会
指定期間	H17.4.1 ～ H26.3.31
施設所管課	障害サービス課 ()

今期の指定管理者の管理運営状況（1～6の結果を踏まえた総合評価）

C

（総合評価の基準）

- A：極めて良好な管理運営状況である。
（「1 管理運営等の状況」を含むAが3つ以上で、CとDが1つもない場合）
- B：良好な管理運営状況である。
（Cが1つ以下でDがない場合）
- C：一部改善が必要な管理運営状況である。
（Cが2つ以上の場合。または、Dが1つの場合）
- D：抜本的な改善が必要な管理運営状況である。
（Dが2つ以上の場合）

<p>< 1 管理運営等の状況 > 民間施設では対応が難しい強度行動障害のある知的障害者を受け入れ、支援実績を上げている。一方で、医療的ケアが必要な障害者も受け入れるなど、幅広い障害特性、年齢層の利用者に対応している。また、障害者理解に向けた地域向けのイベントの開催にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>< 2 収支状況 > 県と法人との協議に基づき、8月に指定管理料の過年度分の精算を行ったため、収支差額が大きくマイナスとなっている。これについては、今後、繰越金の充当等により補填される見込みである。</p> <p>< 3 利用状況 > 施設入所については定員150名を満床にすることを目標に入所を進め、毎月、前年同期利用者数を上回る利用者数であった。重度障害者対応の入所施設として利用ニーズは高く、短期入所も含めそうしたニーズに応える努力をしている。</p> <p>< 4 利用者の満足度 > 利用者向けに満足度調査は実施していない。利用者の要望については、日常の支援の中で把握するとともに、第三者委員の相談会を定期的に開催して個別に相談を受け、必要に応じて園に報告をもらい対応している。</p> <p>< 5 苦情・要望等 > 利用者のご家族から支援内容についての要望があり、その都度、担当課を中心に速やかに対応した。</p> <p>< 6 事故・不祥事等 > 日常の生活支援の中での利用者の怪我などはあるが、園内の診療所や必要に応じて外部医療機関を受診する等、適切に対応している。また、事故には至らないが、ひやりはっと報告の検証を行うなど、危機管理の意識向上を図っている。</p> <p>< 今後の方針等 > 引き続き、強度行動障害や医療的ケアが必要な障害者を受け入れ、年齢や障害特性に合わせたきめ細かい支援を行うとともに、地域の拠点施設として地域サービス事業にも積極的に取り組んでもらいたい。</p>
--

1 管理運営等の状況

評価 **B**

（評価の目安）

- A：事業計画、仕様書等の内容を上回る事業を実施した。
- B：概ね事業計画、仕様書等の内容どおりに事業を実施した。
- C：事業計画、仕様書等の内容のうち、一部の事業を実施していない。
- D：事業計画、仕様書等の内容のうち、半数以上の事業を実施していない。

(1) 事業の実施状況

	提案内容	実施状況等
1 (指定管理業務)	強度行動障害対策生活支援事業の実施 施設入所機能を生かして、在宅や民間の事業所で支援困難ケースを積極的に受け入れ、指定管理者の役割を果たしていく。	強度行動障害のある知的障害者への専門的支援を行う担当職員を配置し、臨床心理士と連携して相談や訪問を行い、自閉症児者の支援に携わるスタッフへの障害の理解と技術向上を図った。 また、地域の民間事業所職員を対象とした研修会「強度行動障害基礎講座」を3回開催し、延べ70名の参加があった。 県強度行動障害対策生活支援事業の対象者を2名受け入れ支援している。

提案内容		実施状況等
2 (指定管理業務)	人権擁護の理解促進を図るため職員としての資質の向上を目指す。 障害者の人権擁護を基本的な理念として質の高い職員集団を目指し、研修体制の強化充実を図る。	虐待防止委員会を設置して毎月1回開催し、各セクションの人権擁護に向けた取り組み状況の集約を行うとともに、障害者虐待防止法に関連した情報の周知を図った。 「利用者の安全確保における行動制限（身体拘束）についてのガイドライン」を基に、安全確保のための身体拘束の実施と、身体拘束の軽減に向けた検証に取り組んだ。 ホームの施設について、各セクションで開錠に向けた検討、具体的取り組みを実施した。 権利擁護をテーマとした職員研修を開催した。
3 (指定管理業務)	すこやかサービス事業 福祉関係職員・地域住民・家族等を対象に、一次救急救命処置研修を実施する。	応急手当普及員の有資格者職員を地域の作業所等に派遣し、一次救急救命処置研修会を実施する「すこやかサービス」を12回開催、延べ146名の参加があった。
4 (指定管理業務)	障害者地域余暇活動支援事業 ①在宅障害児者の余暇活動を支援し地域生活の充実を図ることを目的とした「ワクワクサークル」を実施する。 ②近隣作業所・学校との交流、創作活動の支援を目的とした「わいわい創作活動教室」を実施する。	①障害児者に対する理解の促進及び共に支えあう地域の構築と、地域で生活する障害児者が生活していくための潤いとなる余暇活動「ワクワクサークル」を5回開催、延べ106名の参加があった。 ②近隣に居住する障害児者及びそのご家族等に、創作活動を楽しんでいただくと共に、在宅の障害のある方と当園利用者との相互の交流を図ることを目的とした「わいわい創作活動教室」を1回開催、121名の参加があった。
5 (指定管理業務)	拠点施設機能育成事業 ①地域住民、小学生等に障害者への理解が深まるよう「地域コンサート」を実施する。 ②福祉関係職員のスキルアップを目的とした研修会を実施する。 ③津久井高校茶華道部の生徒を受け入れ、障害者への理解が深まるよう交流会を実施する。 ④障害者への理解が深まるよう地元小学生との合同地区清掃活動を実施する。	①地域住民、小学生等に障害者への理解が深まるよう「地域コンサート」を2回開催、延べ89名の参加があった。 ②福祉関係職員のスキルアップを目的とした研修会を3回開催した。 ③津久井高校茶華道部の生徒を受け入れ、障害者への理解が深まるよう交流会を4回開催、延べ21名の参加があった。 ④障害者への理解が深まるよう地元小学校との合同地域清掃活動を下半期に2回実施予定である。

(2) 月例報告書による確認状況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	—	○	—	—	無	
5月	6月5日	—	○	—	—	無	
6月	7月10日	—	○	—	—	無	
7月	8月9日	—	○	—	—	無	
8月	9月10日	—	○	—	—	無	
9月	10月8日	—	○	—	—	無	

※基本協定書上の月報等提出期限

翌月の 10 日まで

2 収支状況

評価 **D**

(評価の目安)

収支計画（支出額）と比較して

- A：収支状況が良好である（収支差額のプラスが10%以上）。
- B：概ね計画どおりの収支状況である（収支差額がプラスマイナス10%未満）。
- C：計画と異なり、収支差額に10%以上20%以下のマイナスが生じている。
- D：計画と異なり、収支差額に20%を超える大幅なマイナスが生じている。

単位：千円

		収入額（自主事業収入は除く）				支出額		収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		うち納付金	
募集時の県積算額 (参考)					0			0
年度計画	前年度	602,191	710,300	28,703	1,341,194	1,315,394	0	25,800
	上半期	298,501	351,500	14,351	664,352	657,697	0	6,655
	下半期	303,690	358,800	14,352	676,842	657,697	0	19,145
	今年度	461,821	761,188	13,470	1,236,479	1,155,895	0	80,584
	上半期	229,157	380,594	6,735	616,486	577,947	0	38,539
	下半期	232,664	380,594	6,735	619,993	577,948	0	42,045
上半期実績	4月	31,964	68,049	444	100,457	68,985	0	31,472
	5月	31,964	65,498	2,400	99,862	77,615	0	22,247
	6月	69,337	62,999	8,293	140,629	139,133	0	1,496
	7月	31,964	68,087	686	100,737	76,719	0	24,018
	8月	31,964	65,590	149,998	247,552	524,965	0	▲ 277,413
	9月	31,964	61,451	1,084	94,499	75,239	0	19,260
	上半期合計	229,157	391,674	162,905	783,736	962,656	0	▲ 178,920
	対収支計画比	0.0%	2.9%	2,318.8%	① 27.1%	② 66.6%	③	▲ 31.0%
参考	前年度 上半期実績合計	298,501	380,053	10,877	689,431	538,914	0	150,517
	対前年度 上半期実績比				13.7%	78.6%		

※その他収入の内容 事業収入、寄付金収入、雑収入

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	収支計画と異なる理由等
① 収入の増減（収支計画対比±10%以上）	○	指定管理料の精算のため、積立預金の取崩等により収入が増となった。
② 支出の増減（収支計画対比±10%以上）	○	指定管理料過年度分の精算（447,408千円を県に納付）のため、支出が増となった。
③ 収支差額のマイナス（上半期収支計画支出額対比）	○	指定管理料過年度分の精算のため。

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等

基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：大規模修繕：指定管理者と協議、
各所営繕工事・計画修繕工事：県、これ以外：指定管理者

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期		
下半期		
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	95,000	経理区分間繰入金収入
	5,000	会計単位間繰入金収入
	49,100	積立預金取崩収入
	0	
支出	6,540	機械浴槽（2台）の更新
	723	便器（2箇所）の改修
	327	電動ストレッチャー（1台）の更新
	0	
積立等		（期首）
		（期末）

収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等

支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等

積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

3 利用状況

評価 **B**

(評価の目安)

今年度上半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

(目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で)

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

(入所施設等定員がある場合、定員比で)

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	147 人	141 人	104.3 %
5月	147 人	144 人	102.1 %
6月	148 人	144 人	102.8 %
7月	148 人	145 人	102.1 %
8月	148 人	148 人	100.0 %
9月	148 人	148 人	100.0 %
合計	886 人	870 人	101.8 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
上半期計	886 人	870 人	900 人	① 98.5 %	② 101.9 %
下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %
合計	886 人	870 人	900 人	▲ 1.6 %	1.9 %

※目標値の設定の有無

期間	設定している
基準	通年
	施設の定数

その他の場合の期間
その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	×	該当なし
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	×	該当なし

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)	150						150
年間利用可能日数	365						
最大人数	54,750	0	0	0	0	0	54,750
半期	27,375	0	0	0	0	0	27,375

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

4 利用者の満足度（アンケート結果）

評価 -

(評価の目安)

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

- A：80%以上
- B：60%以上～80%未満
- C：40%以上～60%未満
- D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上
- ：今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果						0	0 ()

※今年度の実施予定

※配布・回収件数

※実施方法

上半期 回

下半期 回

その他

配布 件

回収 件

回収率 %

リストから選択

リストから選択

リストから選択

リストから選択

5 苦情・要望等

評価 B

(評価の目安)

- A：要望等を積極的に把握して改善を行う等、サービス向上を図った。
- B：指定管理者に起因しない苦情・要望等があったが、適切に対応した（苦情・要望等がない場合も含む）。
- C：指定管理者に起因する苦情・要望等があったが、適切に対応した。または、指定管理者に起因しない苦情・要望等があり、適切に対応していない。
- D：指定管理者に起因する苦情・要望等があり、適切に対応していない。

報告件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数	2	5	0	0	0	7
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

苦情・要望等への対応

該当あり

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応	原因不明の引っかき傷がある。職員はしっかり見守って欲しい。 気温が高い日に長袖シャツを着用していた。整容にしっかり取り組んで欲しい。	園長以下幹部職員同席のもと、見守りを徹底することを伝え、了承を得た。 担当職員だけでなく、所属ホーム職員全員で取り組んでいくことを伝え、了承を得た。
事業内容		
その他		

※ 指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

6 事故・不祥事等

評価 **B**

(評価の目安)

- A : 事故・不祥事等を防止するために積極的に取り組み、事故等が発生しなかった。
- B : 軽微な事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した（事故等が発生していない場合も含む）。
- C : 事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した。または、軽微な事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。
- D : 事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。

発生状況及び対応状況

該当なし

発生日	事故等の概要	原因・問題点	指定管理者の対応状況・改善策等

随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果等
()		
()		
()		